二十七日夕刊

休刊 大祭日第一第三日曜
定價〔壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢〕
廣告料〔二行五十錢(特定廿錢增)〕
發行兼編輯印刷人 遠藤龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社 電話五六番

病人の避暑地に於て

醫學士 阿峯學人

科學の粋を集めて一分一秒も狂つてはならない筈のサイレンでさへ時ならぬ音響を立てゝ市民を騒がせる程の暑さ、コンクリートの反射熱の中におへぐ都會人か心身に狂ひを生じて能力及び體力共に常軌を逸し勝らになる事は云ふまでもない事で、ならうことなら、健康な人でさへも暑さを海か山へ避けたくなる、まして病弱な人は都會の生活は堪へ切れない、では病める者は山へ行つたらよいか、海へ行つたらよいか、之は吾々内科醫がよく此頃患者から受ける質問であるが私はこゝに病人の避暑——を云つてもその體質により病氣によつて山か海かの

適不適はあるが、主として神經系統の病氣や呼吸器系統及び腹膜炎などの結核性の病氣について夏の轉地問題を述べて見やうと思ふ、一體を述べ病人が盛夏に都會生活をすれば明らかな結核患者でなく、身體の何處かに潜んでゐる様なものでも都會の雜音と酷熱の刺戟と神經衰弱の様な狀態が強くなり、熱がのぼる、痩るといふ風になつて夏の中に病的狀態が眼に見えずとも夏が過ぎ秋口に入つてからさうした病的狀態が芽を出してくるものであり、神經衰弱、ヒステリー其他の神經患者も刺戟に耐へかねて病が[illegible]つのり、[illegible]の下痢が起り、食慾が一層減じ、神經が昂奮していらいらとした氣分になり。甚だしいものは一時的發作を起して狂人の如くなる。最近新聞紙上にこの暑さのため精神が狂亂して殺傷沙汰を惹起した様な問題がちよいよい見ゐるが、何れも

炎熱の刺戟による神經昂奮の結果である、で出來るならばかゝる病人はそれ〳〵適當な所へ三伏の暑を避ける様にしたいものである、そこで先づ海について云ふと海岸は勿論空氣は清く塵埃や微菌も少く、オゾーンや食鹽量酸素量等に富み且空氣は濕潤してゐるが、温度の激變が少く氣壓は高く、局所的氣流があつて晝間は海より陸へ夜は陸より海へと氣流が起り魚類等にも富み轉地場所としてはいゝがしかし日光の輻射が高度で反射も強く熱線も強いといふ風に甚だ暑い、從つて刺戟も強過ぎるので、この點が病人にとつては缺點である、殊に非常に痩た人、痩て肥ぬ人、神經過敏な神經病者には寧ろ禁物である、又結核性、病氣でも發熱のあるもの殊に體溫が常に三十七度二三分及びそれ以上を往復する様な人にもよろしくない、また熱がなくなつて恢復期にあつても

衰弱のある者にはやはりよろしくない、海水浴においては一層絶禁すべきであるが、恢復期の患者、病も輕度の者などはあへて海岸に旣にある者、神經病も海水浴場でなくも凉しい浪の音の烈しくない海岸にあつて白晝をさけて日光のかげる朝夕の涼風時を選んで散歩し、海水で身體を拭ふ位は時によつては却て効が多いものである。

暦日の吉凶
舊暦 六月二二日
新暦 七月二九日

▲一白 時調子付きたるは同じなしも後は破れ易し注意▲二黒 花々しき榮進はなくとも隱れたる功ある日▲三碧 萎靡の風は怠慢より來る腕一杯に働くべし▲四綠 靜かに安らかに氣永に辛抱すれば吉日たり▲五黄 一矢は折れども三矢の力は強し氣を揃へよ▲六白 とれよりよくなる初め支障のため氣を折るな▲七赤 目先を捨て大局に着眼して勵げば大勝利▲八白 德を以てすれば如何なる魔も犯し得ざる日▲九紫 謙遜の德は我を樂園に導くものと知るべし

月見草

和郎生

月見草咲く砂濱の
夕べの風の涼しさよ
君は立ちつゝ潮風に
靡くおくれ毛かきあげて
沖の夕雲見てゐたが
「一寸かんで、ごらんなさい」と
淡い月見草の一花を
しやかんで僕の鼻にもつて來た
「そんなに匂なんかしませんね」と
云へば彼女は笑ひつゝ
「でも戀の臭がするでせう」
海を見ながら微笑んだ
淋しい君の横顔よ
それも去年の夏のこと
たつた一人で海を見る
心淋しい私の身
今年も咲いた月見草
はかない花はなよ〳〵と
若くて散つた私の
彼女の様に搖れてゐる
君の姿か波の上
かもめが一羽はら〳〵と

小説 死を超ゆる者 (48)

三上於菟吉作
布施平八郎畫

薄きえにし(五)

勇の夕闇をすかす陰慘たる眼付には、無謀な、而し當然な死を慾望する焔がふぼつた、むせぶ泣く力をも失つたとき子の胸をも、同じ暗黒な夢想が通り過ぎたに違ひなかつた、しかし勇は……男で深い教養を受けて、そして卓越した感情を持つた勇は、此の時如何なる苦しい運命のもとにも荷失つてはならぬき然たる氣持を取返した、彼は言つた

「とにかく君は優しい子になるのが一番だ、僕はもう行きませう」

そう言つて彼は雄々しく腰掛けをはなれようとしたが、とき子はまだ戀人の手をはなさなかつた

「とき子さん、僕が今言つた言落を忘れないで下さい人間はめい〳〵が望んでゐるようには生きられないのです、悲しいのは僕達だけではありません、僕達はさう思つて忍ぶほかはないのです」

そして勇は思ひ切つたように戀人の手をほぐしてベンチをはなれた、とき子は立上つて取縋らふとしたやうであつたが、体中の力は何處かへ行つてしまつてゐた

彼女は冷いベンチにひさり泣きくずれて、顔を上げることも出來なかつた

「ぢやさようならとゆちやん、いゝですか、忘れちやいけませんよ」

と、勇は泣き崇れてゐる戀人の足の震へを見詰めるようにしながら言つた、そして思ひ切つたやうに歩み出した

殘つたまゝ地上で凍つてゐる雪を踏む下駄のひゞきを聞いたとき、とき子ははつとしたように顔を上げた彼女の面はやつれて蒼ざめて、涙に洗はれてゐた。眼だけが狂はしく燃えてゐた唇が何とか叫ぼうとする様に動いたが、聲は口の中で消ねてしまつた

勇はもう一度叫んだ

「さようなら」

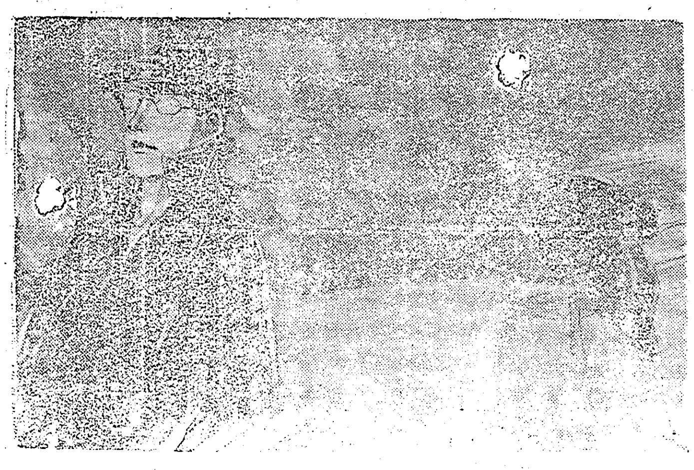
彼は急にあふれて來た涙を手の中で押し拭つて思ひ切つて態度で驅けるやうに遠く去つた

とき子はベンチに身を起したまゝ小路の果てに消ねて行く戀人の姿をいつまでもマントで包まれた背高い姿を唖然と眺めた

土を踏む下駄の音はすつかり消ねてしまつて四邊には死の様な靜けさが來た、彼女はやつとのことでベンチの背に手をかまて身を起した、そして何時までも暗い冷い夜風に吹きさらされながら坐つてゐた

おゝこの運命に見捨てられた娘は戀人を失つた娘は、やくざな父親を持つた娘は、その父親のため數千金の金でもう五十をとうに越したあの脂肥りに肥つた金持に賣られて行かねばならぬ娘は、この瞬間何を思はなければならなかつたであらう、何を思ふことも出來なかつた、彼女の無意味な瞳にはたつた今別れて行つた戀人の雄々しい姿がまざ〳〵と燒き付いてゐるやうに思はれてならなかつた、がその姿がうすれると間もなく

例によつて二階部屋で火鉢にもたれて、しよんぼりと思ひ沈みつゝ當てにならないことを當てにして待つてゐる老人の殆んど同時に浮かんで來るのであつた、彼女は死ぬことも出來なかつた、そして生きるには……あの脂肥りの金持の側へ行く他には……。



◎夏衣陳列
粋な中形
着尺モスリン
名仙 單帶
其の他色々
どうぞ
御來店を
三丁目 鎗田屋 電毛

ヒゲタ醤油
宮内省御用達
銚子醤油株式會社
特約店 平町田町 廣瀬支店 電話五四番

貸切自動車の御用命は昭和タクシーへ
高級車で乘心地の好い
昭和タクシー
平驛前
電話は 三四三番 サシミ

改正 片濱乘合自動車時間表

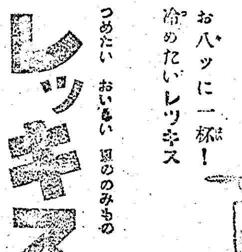
平發	五時三十分	六時三十分	八時	九時	十時	十一時	十二時十分	一時五十分	三時	四時	五時二十分	六時三十分
江名發	五時三十分	七時	七時五十分	九時二十分	十時三十分	十一時五十分	一時	二時	三時三十分	四時四十分	五時四十分	六時四十分

平のりば 四丁目 和泉屋前 新川町 車庫
江名のりば 沖見屋 電話十四番 松屋
鈴木片濱自動車部 電話二一七 車庫呼出 電話一四二

内科診療
消化器病科 呼吸器病科
小兒内科 一般内科
入院應需(自炊ノ便アリ)
平町鼠坂 渡邊内科醫院 電話一六一番

ボール箱製造
大形屋商店
平町才槌小路廿五番地踏切脇
値段は特に大勉強
御注文に應じます

所員採用
平及郡山ニ勤務スル至誠至勤ノ者數名採用ス
御希望ノ方ハ履歴書至急左記宛送付セラレタシ面會日追テ通知ス
平郵便局私書函第六號
東京商業興信所
平出張所 郡山支所



つめたい おいしい 夏ののみもの
お八ッに一杯! 冷めたいレッツキス
レッツキス
發賣元 蜂ブドー酒
R—121

生地の良い仕立の丁寧な
小供洋服
洗テハゲズ 日ニヤケズ
二、三歳用 五十錢
四、五歳用 六十錢
六、七歳用 六十錢
八、九歳用 七十錢
十一、二歳用 八十錢
十二、三歳用 九十錢
スポーツ衿 十四、五歳用 一圓三十錢
家庭用 婦人服 一圓五十錢
ロンパース 五十錢
平町田町 藤田女學校隣
ハシモトヤ糸店

ユラノスケ 粕取燒酎 (六月一日ヨリ發賣)
二合白瓶一本 二十五錢
(從來通り空瓶交換仕可候)
平町四丁目驛通り
永山酒造店總發賣元 電話二〇七番

貸地廣告
平町郡役所より税務署附近の新開地に五百餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極ぐ安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり戴けば社員が伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話 六〇三番 五四一番

營業種は 石炭 コークス 玉炭
磐城第一ノ石炭トシテ自他共ニ推稱スル
◎磐城炭礦ノ最上石炭
一、正味十貫目入 壹俵 金 六十五錢
◎日本デ一番評番ノ良イ東京瓦斯コークス
一、コークス 壹俵 金壹圓三十錢
◎木炭ノ三倍御徳用ナ(ツ)ノ玉炭
一、玉炭 大箱壹箱 金 貳 圓
配達ハ一俵ヨリ致シマス
平驛前 (ツ)阿部石炭商店 電話二三七番

内臓外科 骨關節外科 整形外科 專門 藤本順
産科 婦人科 院長 木村寅次郎
外科 婦人科 平町新川町 木村醫院 電話一六四番

一圓十錢のフランス
マルソー會社元詰
マルソー、ブランク
マルソー、ルージ 生葡萄酒
優良にして安價賣行き飛ぶが如し
平二 西村屋藥舗 たはなし 三番

X光線科
外科專門
入院隨意(自炊の便あり)
平町南町
上田外科醫院 電話一二九

雨攻め日責めの追出策
家賃の滞りを憤つた家主が
平町に珍らしい貸家の問題

家主と借家人の關係が益々複雑化して行く昨今――こゝに家主と借家人も考へさせられる問題が持ち上つた平町五丁目縫紋業石川幸太郎の持家を借りてゐる同※窯職山下健一は不景氣に追ひ込められ如何に褌を締めても芽がふけず月々二圓五十錢の家賃が九ヶ月は滞つた家主の石川方では矢の突く様な催促をしても山下が拂ひ込まぬので憤慨の餘り去る十日石川方では雨攻め日責の追出策として家人總出で山下方の屋根瓦をハガしたので六疊一間の山下方では晝は九十度の炎天に刺し込まれ夜は月星を拝みながら夜露にビッショリ濡れて暮さねばならぬ家主の非道を鳴らし去る十四日の檢事局に家主を相手取り告訴を提起し爾來三笠檢事係りで關係者取調べ中であつたが仲裁人が現れ若干の娯金で山下は轉居する事に纏まり二十六日右告訴を取下げた

惡疫流行の折柄
平に疫痢發生
更に益々漫延の兆あり
當局極度の狼狽

平町地方は近來毎日の如くヂリヾ\焼付く様な酷熱で晝夜の別なく悩まされてゐるがこれがため種々の悪疫が流行し正に猖獗を極めとしてゐる最中突然二十七日午前八時頃平町鎌田町根本精米所根本ミキ子（七）は同町金成醫師の診斷の結果疫痢と判明し役場衛生課は非常に狼狽し警察當局と協力消毒に努め同日午後六時隔離病舎に收容したが發生した附近民は悔々として大消毒を行つたが同病は小兒に多く發生するもので非常に傳染力が強く子を持つ親達は特に注意せねばならぬが復々蔓延を慮り町役場では各戸毎に飲食物の注意等を通達する筈である

内郷と小高の
選手權争奪
あす野球試合

石城郡内郷村高坂校對相馬郡小高校の明治神宮全國野球大會出場決定試合は明二十八日午前九時から平町磐城グランドに於て擧行し優勝校ば來る八月八日の明治神宮大會に出場する事になる筈であるが當日は濱三郡少年野球大會があり參加校は平第一、高坂（以上は尋常科）高等科は平第一、根江、小高、高坂の各校で協會を豫想され優勝校には優勝旗、賞品等を授與される

一千通を突破した
戸迷ひ郵便物
宛名は必ず明瞭に
平郵便局の注文

平郵便局では郵便配達人が昨今の暑さがひどいため過能から減便となり配達人も喜んでゐるが小包や書狀、ハガキが宛名と出入の住所姓名をハッキリと書いてないものが多いため配達夫は非常に困難で數回足を歩ぶなど至急なり迷惑も甚しいので至急を至する書狀もこれがため遅延したり不能還付となつて當局に沒收されてしまいお互に損であるこの不能還付は今年一月から七月現在までに書狀五百九十七通、ハガキ五百十一通合計一千白八通の多數でこれらは皆な無用に終つてしまふのであるから是非一般が注意して迷惑を掛けぬやうにして貰いたいと

平町の母の會

平町バプテスト教會の母の會は二十七日午後七時半から開催しマスターオブアーツのアレン、シエッシーの二女史の講演がある筈

平を徘徊する
不審の男
一先づ拘留取調べ

平驛を二十五日午後十時頃徘徊中の男が擧動不審なので平署員が本署へ引致取調べた所同人は伊達郡森江野村生れ窃盗前科四犯佐野資朝（三三）といひ茨城縣下に於し窃盗を働き懲役五ヶ年處せられ去る六月三日水戸刑務所を出獄後平町地方へ入込んで來たもので取敢ず拘留處分に附し嚴重取調べ中である

平町野菜市場
廿五日附ー認可

平町紺屋町佐藤作平氏は同町郵便局裏の空地に野菜市場設置の出願中であつたが二十五日附で縣當局から許可されたが之に依つて從來野菜市場が無かつた同町は種々な弊害を一掃されるだらうと町民から喜ばれて居る

事業界に花一輪
刻苦と精勵
大業遂ひに成る
清野キヨ女史

安産するための根本の必要條件は、分べんの時に押し出す力が充分なことゝ、胎兒が通る路の骨や肉に障害がないことゝそして胎兒も形や大きさ位置が障りないやうになつてゐないといふことであります。通る路や胎兒の位置などは前以て醫師や産婆にみてもらつてよく整いてたく必要がありますがともかく體か丈夫でなければ押し出す力か不充分で、安産出來ないばかりでなく、よい子が生れない事になりますから殊に健康に心がけねばならず、夏季は特に攝生を重んじなければなりません

平町南町、平産婆看護婦學校長で平看護婦會長の清野キヨ子女史は「特に姙婦の夏季衛生に就いて」專門語タップリに前述の如く安産の必要條件を説くその清野女史は其の癖安産にも難産にも大体た産と云ふものの經驗を持たない

明治三十八年七月、時は日露戰爭も講和に近ついたもの、斯の滿州の荒野に雄々しくも立ち働らく赤い十字の看護婦が若い女性の憧憬れの的となつて騒ぎ廻される頃ほい、石城看護婦養成所第二回卒業生として産婆看護婦の免許狀を獲得した女史は東京の諸大家に就いて學理の研究と實地の練磨に努め愈々或る確信を得て後平町に看護婦會を組織して以來二十幾年

刻苦精勵、時に或は幾多の難關に挫折せんとせる危機に瀕したけれども些さかも挫ける所なく夫れは男子の遠く及ばさる一大勇猛心を奮つて突進し内容の刷新改善に努め或は校舍の増新築から設備の完全等見る可きものあり幾多優良なる看護婦を社會に送り出したる功績は既に社會一般の容認し得る所である

今春夫君を喪つた女史は墳墓未だ乾かざるに泉村の生家の嚴父の危篤を傳へられ精限り根限り看護の甲斐あつて少康を得最近稍々愁眉を開いた形ある、海軍兵曹長に現任する令弟を後繼者と定め將來益々事業に精進すべしと謂ふ、よい哉な、事業界に咲く雄々しの花一輪

磐中野球軍
福岡中學と對抗

磐城中學校野球部では愈々二十九日福島市に於ける東北大會に出場し岩手縣福岡中學と組合せ試合ひの組合せに決したが明廿八日午後一時四十分であるが各選手は大氣鋭を擧げ必勝を期しある

卓球試合延期

オール仙臺對オール平の卓球試合は近く擧行の豫定であつたが都合に依り來月二十[illegible]に延期された

自動車追突
運轉手三週間の傷

福島市大町病院の自家用自動車が矢原、岩永、戸田の三博士を乘せ二十四日安達郡伊達下村高越長法寺地内疾走中平町自動車營業芹澤正志（三二）の自動車を追ひ越さんとして衝突し前方の自動車の前部を大破正志及び運轉手も何れも前額部その他に重傷を負ひ直ちに本宮町大原分院に收容したが何れも三週間を要すると

濱三の災害復舊費
改めて縣に陳情
資金は十五萬圓

濱三郡の災害復舊に就ては三郡町村長支會同郡選出縣會議員、郡農會長等が陳情委員に擧げ縣當局に迫つてゐたことは既報の如くであるが其後内閣更迭を見たので既に大體決定した災害復舊資金十五萬圓の認可に就て更に八月一日午前十時前記各委員は出縣當局に再陳情することに決し最初計畫に依つて邁進する筈であるが災害復舊資金のこともあるから大體縣當局に於ても承認される模様である

勿來青年會館
九月下旬迄に竣工

石城郡勿來町青年團は同町より寄贈された舊校舎の一部を窪田町青年會北郷隆業村井萬吉の兩氏等卒先奔走し勿來町青年會館と名稱して改造工費一千五百餘圓で來月初旬起工し九月下旬に竣工しその費用は同會の基本金及所有建物の賣却及其外有力家の寄附を仰ぐ筈であるが石城郡内にて町村青年會館としては嚆矢である

平町の夜店
一丁目が賑ふ

平町一丁目の夜見世は二十五日夜より開店し道路兩側に植木屋、ガラス屋、小間物、野菜屋等が出張つて景氣を呼んでゐたが夜見世最初との事で賣上高を聞くと入出の割合に收入は少ないが相當儲けがあり一店平均三四圓位の利益は少くも出入が幾分あり寂れた様な程度で在來の各商店も客の出し本町通りは全く一變し一丁目通りも今夏から賑ひの見込みで三丁目十字路から一丁目までは夜見世街と化するものと觀られてゐる

常磐支店清遊 平町

常磐銀行平支店々員一行廿餘名は廿八日、日曜日鮫川遊覧地曳網に興じて一日の清遊を試みる

中堅農民講習
來月五日實地講習

石城郡農會の主催する中堅農民講習會の現地講習は八月五日から玉川村、磐崎村の農事實行組合の共同作業並に小名濱方面は信用組合測候所に於て見學講習する筈で同會大山技師以下準備中である

吉田高等榮轉 平署

高等係吉田利夫は二十七日附棚倉署高等主任に榮轉し來る三十日午前九時廿五分平發で赴任に決した

郡下の夏秋蠶に
特に多い硬化病
養蠶家が注意せよと
當局豫防に應心

石城郡地方の夏秋蠶は早きは既に三眠中であるが蠶業にとつて最も重要なものは上簇の改良と硬化病の豫防とであるが硬化病は數年來益々増加の傾向があるので當業者は特に注意を要するが今春蠶期に繭蛆寄生歩合調査のため各町村で調査の結果蛹体に硬化病の寄生の多いのに一驚した事實があるので從來の春蠶は硬化病が少いのを例としたのに拘らず今春蠶に徴し夏秋蠶は一層傳播するため蠶室、蠶具の消毒や飼育上充分の注意を必要とするので縣に於ても夏秋蠶飼育の要領

内容充實せる
磐城建物
今期利益配當

平町磐城建物株式會社では此の程定時總會を開き本年度上半期の決算並に利益金處分案を附議したが同社は專ら内容の充實を計る爲め飽くまで着實主義に則り着々基礎の確立に努めて來たので數年來事業は經濟界の影響を蒙り前々二期とも無配當であつたが今期は積立金、後期繰越金を控除し尚は三分二厘の利益株主配當をなしたが然かも財界の不振は逐次深刻に一般事業界不振の大勢に逆行し同社が此の成績を見た事は支配人井上貞次郎氏の細心着實なる手腕經營の賜と見るべきである

かみえつ

藝妓屋が開花かありた菓子屋に開花がある桐の一葉、こぼれても開く二葉の女男づれ三ッ葉は吸物の上置くなり四つばらはた茶屋のつまみものとなるといつて、料理のことにはあらず◆さほどに便利な電話も間違ひのもと藝者屋の御花に饅頭の注文あれば、た菓子屋へ忘れた越褌 捜索もくモシヽヽ花榮ですか御冗談でしよう、カビて毛の生へた饅頭はいらんなんて、家ちやた菓子屋でありませんよ◆一方では又越中ですっし、そんなた菓子はありませんよ、アンか這入つてゐるんですか、たやアンのついてるような汚いのおちやないつて、ヘンおれんとこぢや汚ねいお菓子は賣りやしねへぞ、と丸で喧嘩腰は冗談の話さ

小名濱商港復活
運動費寄附芳名（二）
領收證に代ふ　小名濱町役場

一金五拾錢 赤根竹治郎
同 菅原耕治
同 上野代作治郎
同 竹村宙次郎
同 完島高之助
同 佐原誠彌
一金壹圓 馬上千代吉
同 小松清治
同 馬上政次
同 小松德松
同 藁谷龜次
同 佐藤千治
同 關部長吉
同 白岩周造
一金五拾錢 吉田興ク
同 馬上軍造

同 比佐政一
同 小磯子之吉
同 丹野萬吉
同 鈴木亥太
一金壹圓 小野丑藏
一金九拾錢 馬上稻吉
同 横山酉治
一金壹圓 丹 慶助
一金九拾錢 馬上勝治
一金壹圓 鈴木甚一郎
同 小野辰藏
同 塙 喜代松
同 丹 明
一金五拾錢 松原梅次郎
同 初瀬春吉
一金壹圓 大和田丑三

同 馬上義勝
同 加瀬作次郎
同 梁瀬 傳
同 大平留吉
一金五拾錢 鈴木×吉
同 鈴木勝之進
同 安島マツ
同 高木エイ
同 平塚一郎
同 苫川寅松
同 根本金之助
一金壹圓 丹 德松
同 金成留吉
一金五拾錢 菅 行院
同 鈴木豊吉
一金壹圓 小野德四郎
同 上野代幸太郎
一金五拾錢 鈴木市松
同 鈴木溜吉
一金五拾錢 小松啓吉
同 鈴木登記
一金貳拾圓 清水 厚

一金拾圓 新 米
一金參圓 冨田 厚
一金壹圓 長澤建材店
同 佐藤千代松
同 五十嵐辰吉
同 御代 定吉
一金五拾錢 絲田信吉
一金壹圓 瀬谷彌助
同 野口信吉
同 渡邊酉三郎
同 榮花 清
同 後田義之助
同 新妻祥一
同 江幡粂吉
一金貳圓 小野三郎
一金壹圓 西原きさ
一金五拾錢 佐藤信太郎
一金壹圓 小野キミ
一金五拾錢 土佐晴基
一金壹圓 柚原德七
一金貳圓 木田磐松
一金五拾錢 小野清助

一金壹圓 小澤義夫
一金五拾錢 鈴木定之助
一金七拾錢 馬上其吉
一金壹圓 矢内吉三
一金貳圓 江尻通典
一金八拾錢 本郷喜三郎
一金壹圓 小湊啓祥
同 渡邊 準
一金九拾錢 小野キセ
同 加藤サタ
一金七拾錢 赤津辰吉
一金壹圓 小野米吉
一金貳圓九拾錢 金成晴造
同 金成寅之助
一金壹圓五拾錢 丹 由之助
一金五拾錢 遠藤龜吉
同 新井新太郎
同 江尻善助
同 小野龜吉
同 大和田健次郎
一金壹圓也 小川國高
同 小野午吉

平町南町
大和田醫院
電話一七〇番

痔の最高内服藥
ダイサン錠
鼻のクスリ
チクノール錠
平町五丁目角
山野邊藥局

内科、小兒科　市原卯太郎
外科一般、婦人科　市原陸郎
外科、梅毒、淋疾
皮膚病　市原三三男
平町田町本通
（入院隨時）
市原醫院
電話一一四番

レコードハ此のマーク！を
肉聲のビクターレコード
販賣店
會田時計店
平町四丁目（電話三六三番）
店員募集

内臓外科
外科一般
花柳病科
入院隨意 自炊の便あり
平町田町大通り
安齋外科醫院
電話四三六番

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋
㊇ 釜屋商店
諸橋久太郎
電話 九番・三九番
振替貯口金座東京一〇九五六番
確實敏捷は久の生命なり

安全第一
諸債券、公債ノ御用ハ迅速簡易ヲモツトートスル弊店ヲ精ニ御利用ノダサイ
營業課目
勸業債券 復興債券 公債其他 為替 金融
質物一般 取扱
多田井商店
平町大工町